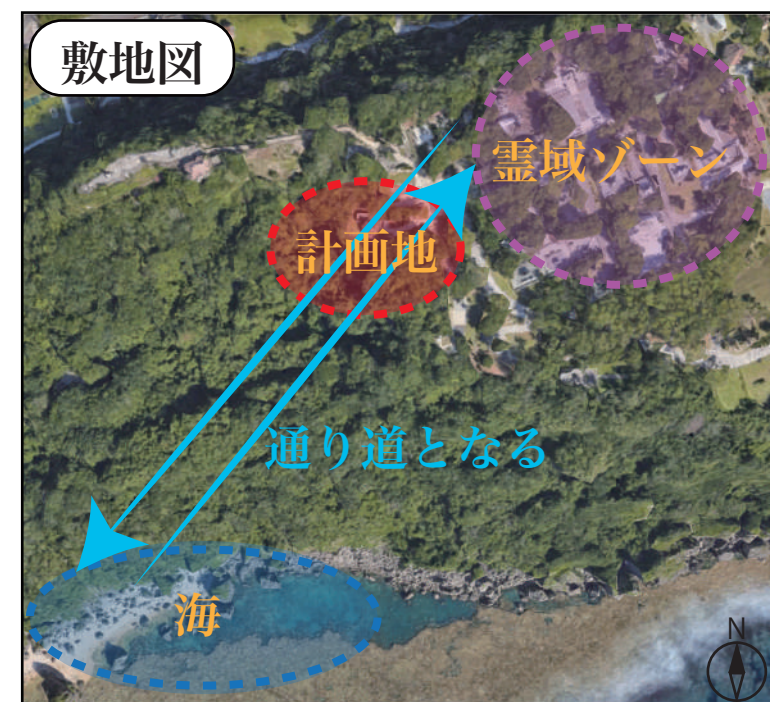


望郷の庇

- 遥かなる理想郷を望む処 -

古来、沖縄の人々が海の彼方の理想郷とし、魂が還ると信じた**ニライカナイ**。この場所は、その遥かなる地平線へ思いを馳せる場所となる。中央のひし形の壁と海へ向かって勾配の上がる屋根は、訪れる人々の視線を緩やかに水平線へ繋げる。霊園で祈りを終えて、この休憩所に集う人々は、還った魂とのひとときの時間を過ごすのだろう。

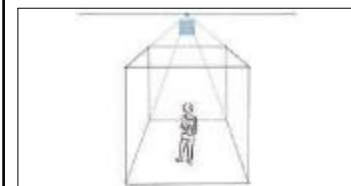


敷地現状

本計画地は、沖縄戦終焉の地である糸満市摩文仁に位置し、「平和の礎」を擁する厳粛な霊域ゾーンに隣接している。敷地は海を見下ろす高台にあり、その広大な水平線は、古来より魂が還り、幸をもたらす**理想郷**とされる「**ニライカナイ**」へと繋がる**場所**である。

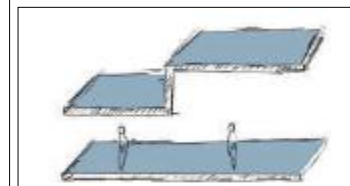
老朽化した休憩所の再整備にあたっては、周囲の厳粛な雰囲気と調和し、**霊園に祈りを捧げた人々の「通り道」**でもあり、沖縄の信仰上の魂が還る**「通り道」**でもあるという点を考慮し、計画する。

空間抽象スケッチ



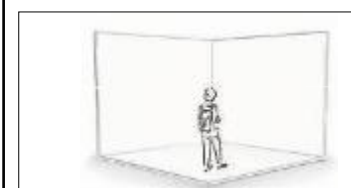
地平線を見通す開口

海の彼方にある理想郷への視線の開放



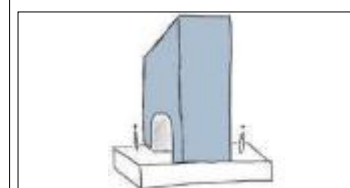
高さの変化

「魂の帰還」を促す意識の上昇



視線を誘導する壁

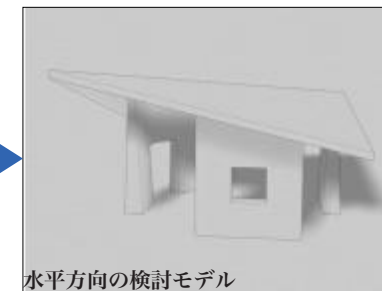
「祈りの対象」への意識の集中



通り道としての建築物

霊域から海（神域）へと向かう動線上に位置する神域の通り道。

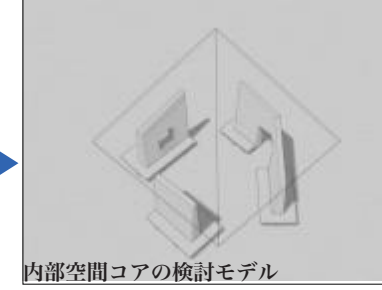
コンセプトモデル



水平方向の検討モデル

<勾配屋根と海への開口>

海側へ緩やかに昇る勾配屋根。この大屋根を支える重厚な壁には、**海の景色を多様に切り取る大小異なる開口部**がある。これは、利用者へ「ニライカナイ」の思いを馳せる。

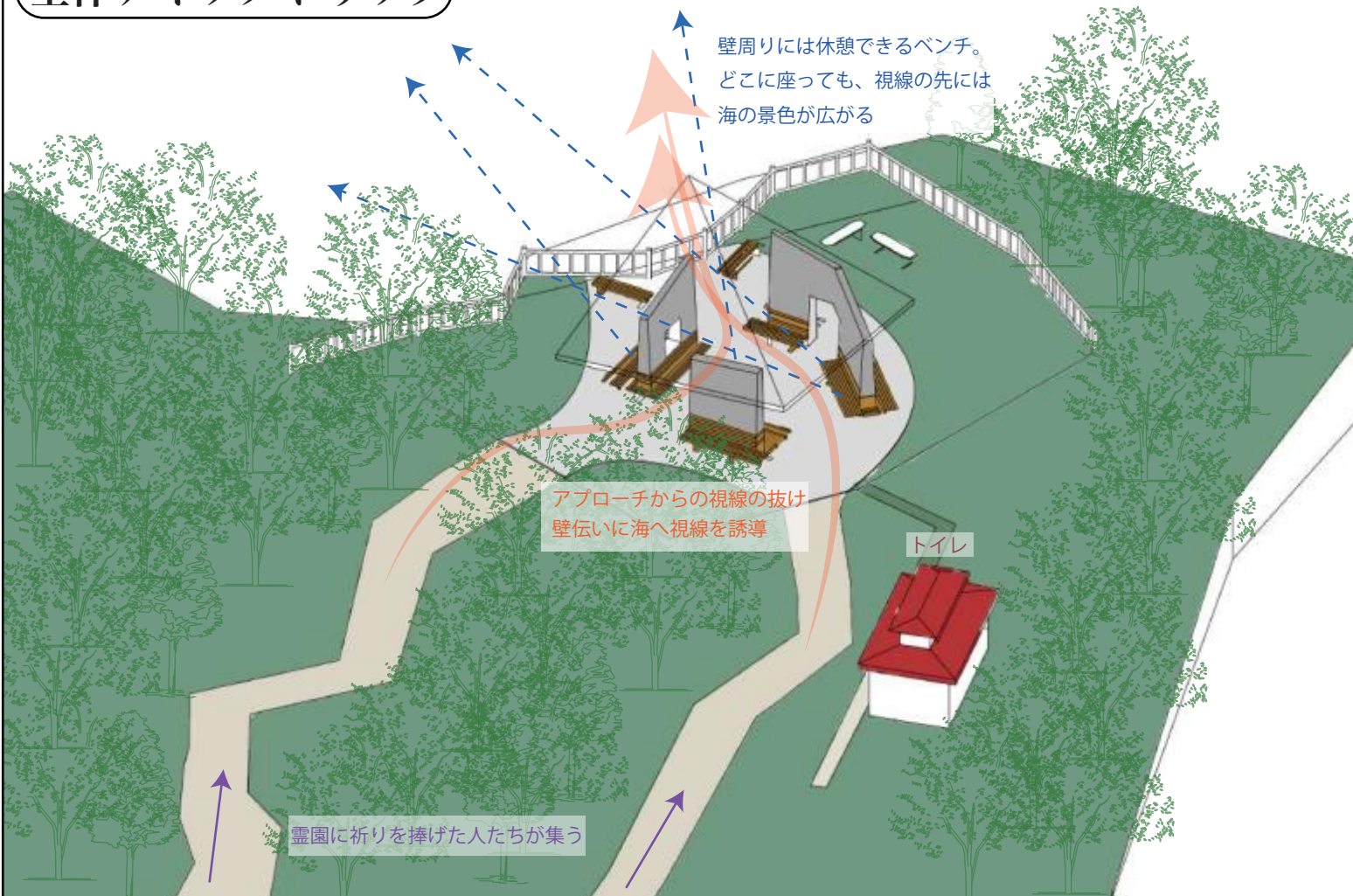


内部空間コアの検討モデル

<誘導する壁と十字の動線>

垂直に立ち上がる**ひし形配置の壁**は、アプローチから海への視線を誘う。そして、建物中央は慰霊塔側と海側、「**十字の動線**」の結節点となり、通り道として重要な建物となる。

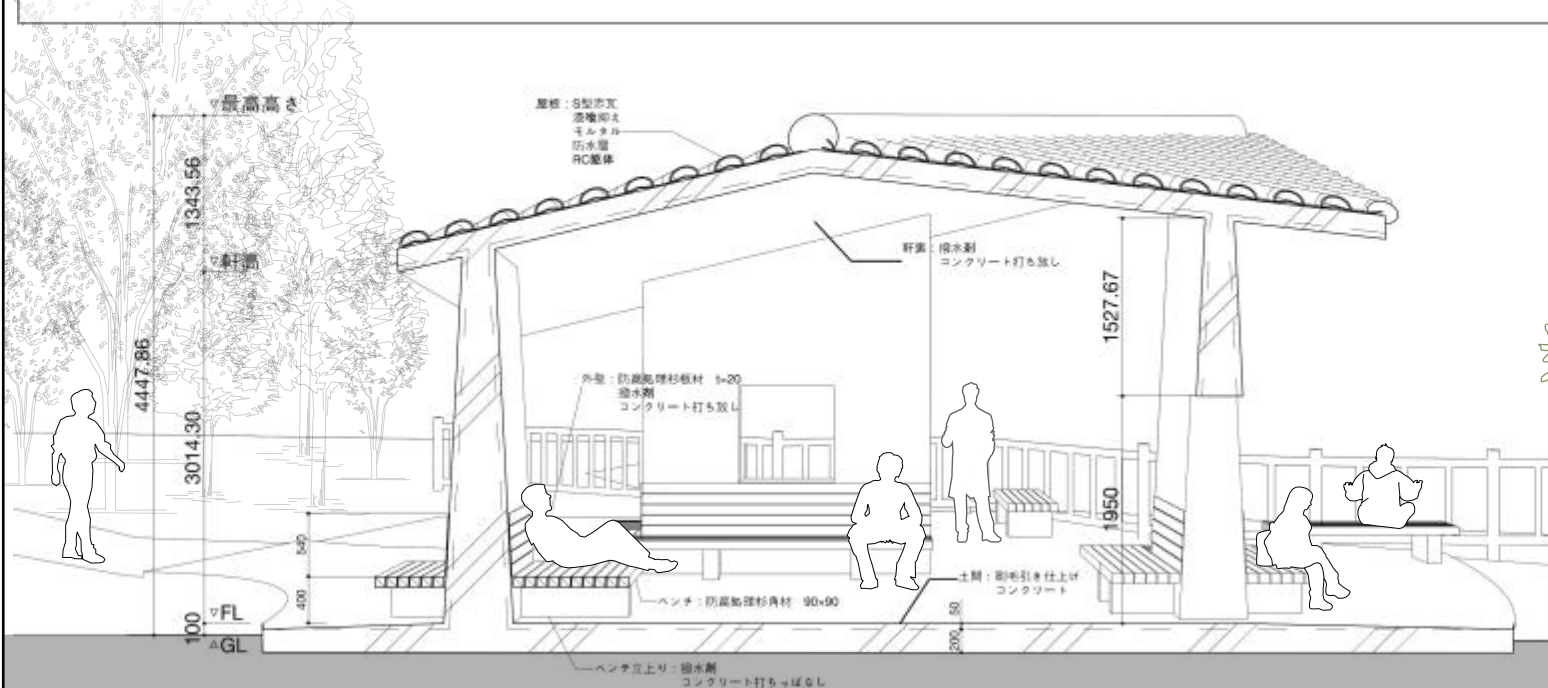
全体アイソメトリック



断面詳細図

<断面詳細計画>

- ・主要構造体は、RCのコンクリート打ち放し仕上げを用い、コストを削減しつつ、周辺と調和した重厚で厳粛な質感にする。
- ・構造壁の斜めに立ち上がる形状をベンチの背もたれとして一体的に利用する。土間からコンクリートを立ち上げ、座面部分の角材を支える。座面部分と背もたれ部分は、防腐処理杉材を使用しコストを抑える。

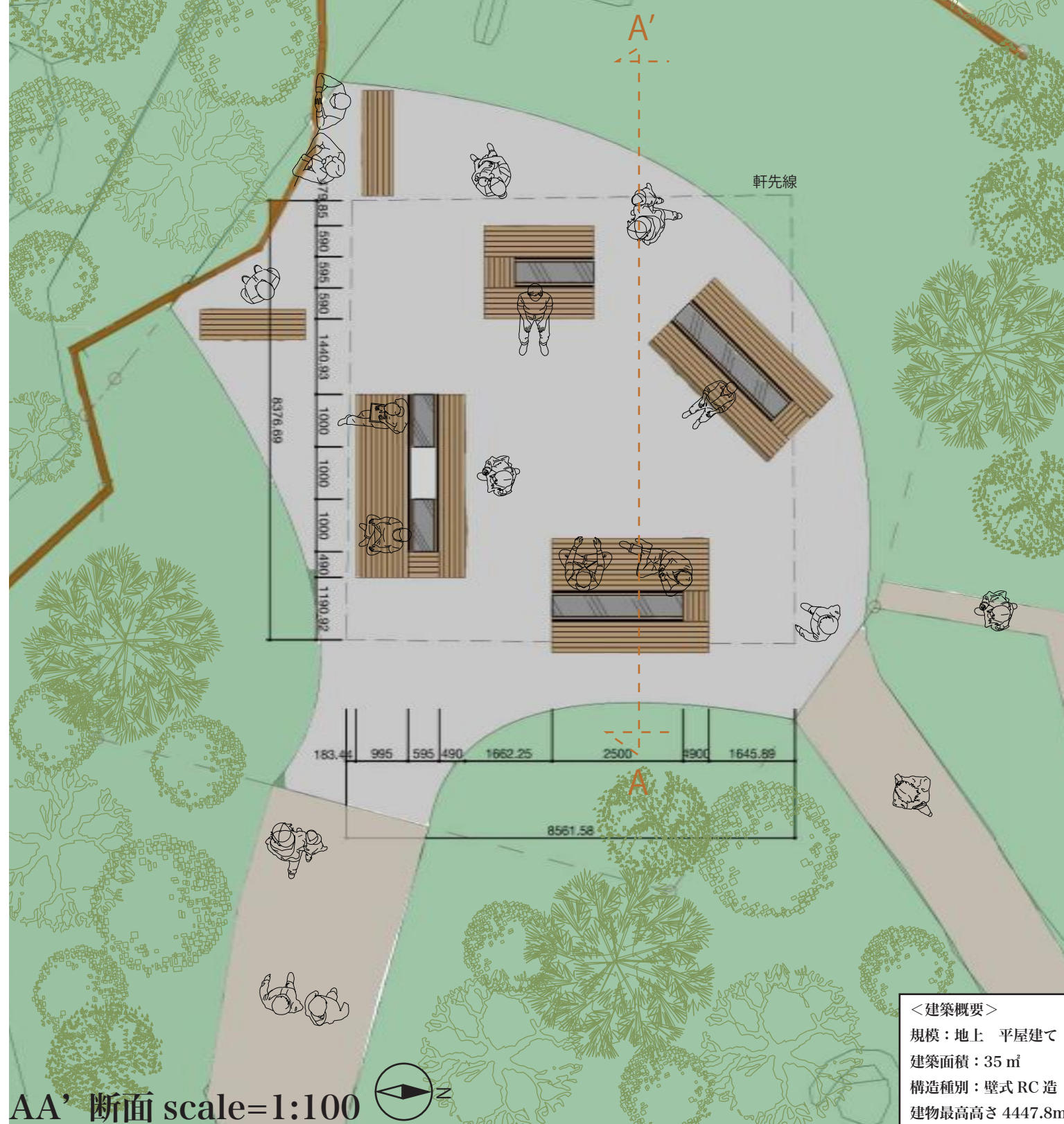


AA' 断面 scale=1:65

平面図

<平面計画>

- ・中央のひし形壁は、主要な壁式の構造体であり、閉鎖的にならないように動線上や開けた景色の方は開口を設け、開放的な構成にしている。
- ・二方向の霊域側からの動線は、建物中央で交差するため中央には障害物を避け、海側への動線は干渉を受けることなく、スムーズに行き来できるようにしている。
- ・休憩ベンチは、構造体の壁沿いに個別のグループとして分散して配置している。団体利用（慰霊団、修学旅行生）と個人利用が同時に利用する場合でも、壁と分散配置によって他のグループの視線を気にせず休憩ができる。



<建築概要>

規模：地上 平屋建て
建築面積：35㎡
構造種別：壁式RC造
建物最高高さ 4447.8m

AA' 断面 scale=1:100